



あじさいだより

2023年 2月

<http://www.pharma-care.co.jp>

発行責任 あじさい薬局
あじさいだより編集委員会

★痛み止めについて

今回は痛み止めで一般的によく使用される、非ステロイド性抗炎症薬をメインに説明しようと思います。

非ステロイド性抗炎症薬（NSAIDs）とは

最も一般的なタイプの痛み止めの総称です。痛みを止める他に、炎症を抑えたり、熱が高い時に平熱まで下げる効果も期待できます。関節痛・腰痛・頭痛など様々な痛みを抑える目的や解熱剤としても広く利用されている薬です。一般の市販薬としても多くの商品が販売されています。

NSAIDs は体の中でシクロオキシゲナーゼ

（COX）という酵素の働きを抑える事で、痛みに関わる物質の生成を抑制します。それにより、痛みや腫れ、熱感を抑え、炎症を抑える作用を示します。



主な NSAIDs にロキソプロフェンナトリウム（ロキソニン）、ジクロフェナクナトリウム（ボルタレン）、セレコキシブ（セレコックス）などがあります。

【良く起こる副作用について】

胃腸障害・腎障害など

シクロオキシゲナーゼ (COX) は胃の粘膜の構成にも関与しています。この COX の働きを抑えるため胃の粘膜障害を引き起こすと考えられています。長期で服用すると胃腸障害が起こりやすくなるので、胃薬も一緒に処方されることがあります。また、COX は腎臓の血流にも関係していて、COX が抑えられると腎臓に流れる血液の量が減り、腎障害を引き起こされることが考えられます。

副作用予防の観点から、痛み止めは継続して飲むよう医師の指示がない場合、痛くないときは飲まないなどの必要最小限の使用にするのが良いです。長期で服用しなければならない場合は定期的な検査をしてもらいながら服用するようにしましょう。



アセトアミノフェンについて

今回紹介した NSAIDS 以外にも、似たような効果の痛み止めでアセトアミノフェン（カロナール）という薬があります。高用量で使用しないと痛みに対して効果は弱い薬ではありますが、熱を下げる効果があり、腎臓の悪い人に対して使いやすく、胃腸障害が少なというメリットも多い薬です。乳幼児から高齢者まで幅広い世代の人に使われる薬です。

